

西光寺だより

第十六号 平成二十三年十二月一日発行

今年もいよいよ師走を迎えました。東日本大震災という災害が発生した本年は、日本全体が驚愕し、心を痛め、自分が出る何かを考えた年ではなかっただろうかと思えます。

皆様にとつてはどのような一年だったでしょうか。

被災地ではご自宅で新年を迎えられない方が数多くいらつしやることと思えます。一方、被災地から離れた私どもは、例年どおり年を越し、新年を迎えることが出来る方がきつと多いことでしょう。

どんなに痛ましいことがあつても、逆にどんなに嬉しいことがあつても、時はどの人の上にも平等に過ぎてゆくのですね。その現実をどのように受けとめたらよいでしょう。

親鸞聖人は、「ご生涯の中で三回の大飢饉に遇われています。「ご消息」という聖人のお手紙の中に、そのことを書かれた一節があります。「生ということも死ということも、わたしの思いのとおりに働いていない。無情のことわりとして、わたしの思いを超えたはたらきとして、言い換えれば生かされていることとしてある」と説かれています。

生死は、一見隔てがあるのだけれども、つきつめていけば、今日と今日のちの中で、死というはたらきもあり、生というはたらきもあります。そのことに気づいたならば、私たちは生死を、隔てをもつて見がちの中に、私たちのさまざま悩みがあり苦悩があり、迷いがあるということになります。逆に言うならば、私たちが今いのちあるということのはかりしれない有難さと尊さ、そしてその中にいつどういう形であつても死というものがただちにこの身に生ずるのであるということ深く味わつてみるのが大切だと思えます。



◆十二月・一月の行事◆

・十二月三十一日（土）

除夜会

十一時五十分より除夜の鐘つき

・一月一日（日）

元旦会法要

午前十時 正信偈行譜六首引き

西光寺本堂

●今月のことば●

親鸞聖人「ご消息」より

「なによりも、去年・今年、老若男女おほくのひとびとの、死にあうて候ふらんことこそ、あはれに候へ。

ただし生死無情のことわり、くはしく如来の説きおかせおはしまして候ふうへは、おどろきおぼしめすべからず候ふ。」

※現代語訳

「去年（1259年）と今年（1260年）とに多くの老若男女の人たちが次から次へと亡くなつていく。これはとても哀れなことである。ただし生死無情のことわりについては、詳しくすでに如来が説いておられて驚くことではない。生死無情のことわり、つまり生死というのは常が無い。常に変化するということわり、道理はすでに如来が説いておられることである。したがって、そのこと自体は驚くようなことではない。」

◆先月の報告◆

報恩講法要

十一月二十三日（祝・水）に西光寺本堂にて報恩講法要が厳修されました。午後二時から奉讃大師作法のお勤めをし、午後七時から宗祖讃仰作法のお勤めを致しました。親鸞聖人のご命日にあたり、その恩徳を報謝する浄土真宗最大の法要を、今年も親鸞聖人七百五十回大遠忌法要年にあたり、五十年に一度のご勝縁と併せて巡り合わせて頂いた事、また大変多くの門信徒の方々に来て頂き、皆様でお念仏を味わえた事、感謝の思いでいっぱいです。午後七時からのお勤めは急遽、継職奉告法要で皆様からいただいた七条袈裟をつけてのお勤めをさせていただきました。報恩講に際し自分自身にとっても、感無量の思いでありました。

また、御講師の赤山先生にも、浄土真宗の根本のお話やご自分の経験をもとに大変ありがたいお話を聞かせていただきまして、本当にありがとうございました。

そして、一年間西光寺での法要のたびごとに準備や後片付け、御講師や他の住職がたの接待、ご門徒の方々への接待など西光寺総代を始め講師の皆様そして西光寺仏教婦人会の皆様、そしてすべてのご門徒の方々、この一年間本当にご尽力いただきありがとうございます。皆様のおかげにより感謝する事が出来ます。これからもどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



◎あともがき◎

今年も残すところあとわずかです。今年には三月に発生しました東日本大震災、台風12号による和歌山・奈良の災害など自然の力が猛威をふるった年でした。日本人がいのちについて考える年でもありました。

西光寺においては、分岐点となる行事が続きました。四月に西光寺親鸞聖人七百五十回大遠忌法要ならびに第二十世住職継職奉告法要、茨木東組本願寺団体参拝、などです。門信徒の皆様の大きな大きなお力添えのとなし得た法要ばかりです。今年一年、本当にありがとうございます。来年はさらに西光寺を盛り立てられるよう励んでまいりますので、宜しくお願ひ申し上げます。どうぞ皆様、良いお年をお迎えくださいませ。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二一四七九四

FAX 〇七二一六二一九二九二

<http://www.osaka-saikouji.net/>

報恩講法要 継職奉告法要でいただいた七条袈裟
をつけさせていただきました。